



萌木 1月号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和6年1月16日発行

身に着けたい力

校長 山田 勝

令和6年、2024年、あけましておめでとうございます。

新しい年は、気持ちを一新してしっかり一步を踏み出そうと、それぞれの人がそれぞれの地で願い、計画を立てているところに襲ってきた能登半島地震で始まりました。

1年の中でも、一番穏やかに時間が流れている1月1日の夕方。被災された皆様のお心を推し量ることは到底できませんが、心のありようの落差に差し上げる言葉も見つかりません。

被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く安心できる生活が戻ることを願っています。

被災地と遠く離れたこの東京の地ではあっても、私たちが暮らすこの社会・地域での生活は、被災地の生活と必ず繋がっています。安全な学校生活を送る環境が保障されている七中生に、被災された方々の心に寄り添うということはどういうことなのか、どのようなことができるのか、何に取り組むべきことなのかを、しっかり考えとほしいと願い、始業式でも話をしました。

元日の夕方、能登半島地震のニュースが飛び込んできました。テレビから繰り返し流れる緊急地震速報に、改めて事の重大さを突き付けられました。遠く離れたこの地から、何にも応援の手を差し伸べる手段を持っていない身としては、罹災された方々の安全を願うことしかできないことにもどかしさを感じたこともありました。改めて、被災された方々にはお見舞い申し上げます。

これから、義援金の呼びかけやボランティアの募集などの報道を目にすることがあるかもしれません。何か自分にできないか、すぐに行動できることはないのか、どうすればいいのかわかりません。不安も高まります。そのような方法で被災された方に寄り添う方法もあると思いますが、そのことだけが被災された方々に寄り添うということではないと思います。行動する機会は必ずやってきます。その時まで、まずは私たちが営んでいる日常の生活・活動を継続することが、社会をしっかりと動かす土台をしっかりと作ることが今の私たちにまずできることなのではないでしょうか。私たちの日々の生活が、被災地の方々の生活と、きつとつながっているからです。

みなさんも、ニュースに接するたびに心を痛めていることと思いますが、今自分ができること、やるべきことにしっかり取り組むことをとおして、私たちの国、私たちの社会に関わってほしいと思います。

テレビなどの報道やネットニュースからの情報でわかること、知ること、その情報量が多いことに振り回されてしまわないよう、正しい情報を判断する力も身に付けていかなければなりません。その力を身に付けてこそ、正しく行動する機会を判断できると思います。

加熱する私見も多く含まれた報道などの情報に接し、今の自分の立ち位置・取り組む方向を惑わされず、やるべきこと、自分の目標にしっかり進むべく日々の取り組みに臨んでほしいと思います。改めて、情報を多く知ることができるこの社会の中で、正しい情報・真の情報を判断し取得する力を身に付けることの重要度を上がっていると、認識をしました。

自分には当たり前のように学習に取り組み成長していくことができる環境があることをしっかりと把握して、正しい判断力の裏付けとなる正しい知識の習得や適切な思考力の獲得を目指し、今の自分にできる当たりの活動・学習にしっかり取り組むことで、より良き社会人へ成長してくれることを目指してまいります。保護者の皆様、地域の皆様の変わりませぬご理解ご協力をお願いします。